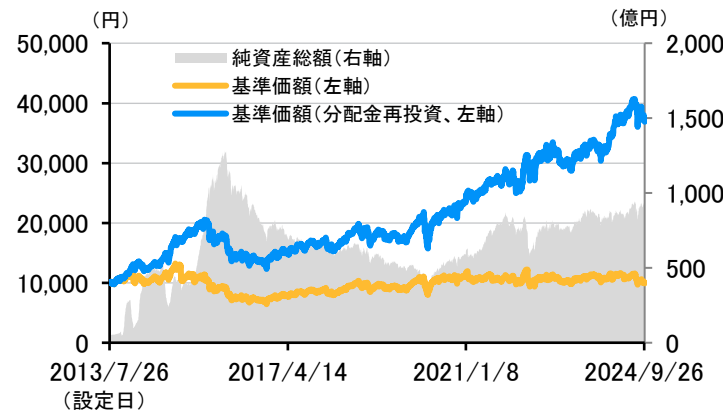


JPMグローバル医療関連株式ファンド

追加型投信/海外/株式

設定来の基準価額(税引前分配金再投資)等の推移



・基準価額は信託報酬控除後です。分配金再投資基準価額は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。信託報酬については、後記の「ファンドの費用」をご覧ください。

ファンド概況

基準価額	9,911円
純資産総額	917.9億円

騰落率(%)

期間	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
騰落率	-5.6	-8.2	-3.0	12.4	37.7	269.1

騰落率は、分配金再投資基準価額にて計算しています。騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

ファンドの組入状況

投資証券名	組入比率
JPモルガン・ファンズー グローバル・ヘルスケア・ファンド	99.42%
GIMジャパン・マネープール・ファンドF (適格機関投資家専用)	0.00%
合計	99.42%

投資先ファンドの組入比率はファンドの純資産総額を100%として計算しており、投資先ファンドの組入比率との差は現金等です。

分配金実績(1万口あたり、税引前)

設定来 合計	第34期 2022年1月	第35期 2022年4月	第36期 2022年7月	第37期 2022年10月	第38期 2023年1月
14,600円	0円	1,300円	100円	100円	0円
第39期 2023年4月	第40期 2023年7月	第41期 2023年10月	第42期 2024年1月	第43期 2024年4月	第44期 2024年7月
100円	0円	200円	900円	800円	600円

分配金は過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。また、必ず分配を行うものではありません。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

JPMグローバル医療関連株式ファンド

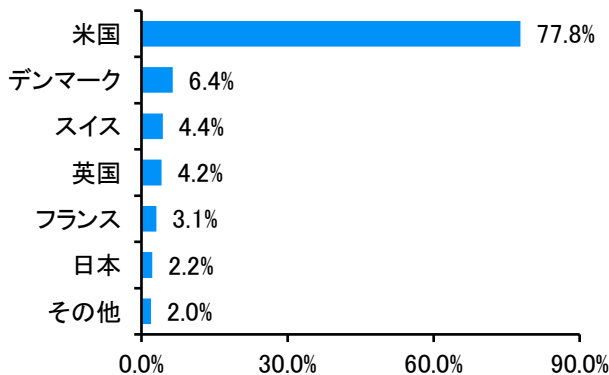
JPモルガン・ファンズ・グローバル・ヘルスケア・ファンドの運用状況

当ページは、JPモルガン・ファンズ・グローバル・ヘルスケア・ファンド(外国投資証券)の現地月末最終営業日基準の数値を使用しています。

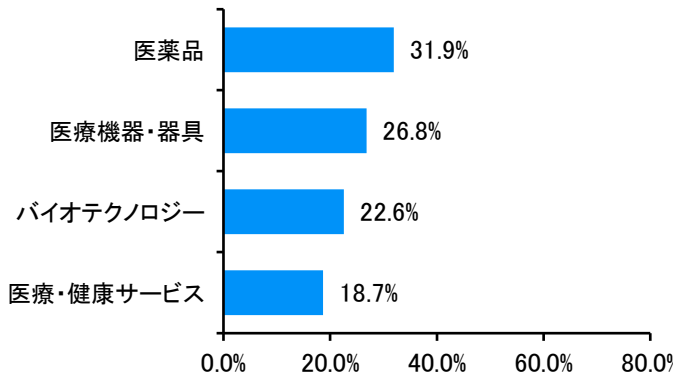
銘柄数 57

有価証券組入比率 98.8%

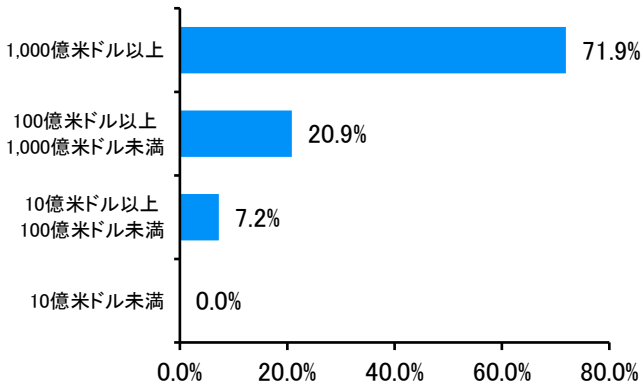
国別構成比率



業種別構成比率



時価総額別構成比率



・比率はいずれも組入有価証券(キャッシュ代替として短期運用を目的とするものを除く)を100%として計算しています。比率は四捨五入の関係で合計が100%とならない場合があります。
・国別については、MSCI分類に基づき分類していますが、当社および当社グループの判断に基づき分類したものが一部含まれます。
・業種別については、当社および当社グループの判断に基づき分類しており、ETF(上場投資信託)を除いた組入有価証券を100%として計算しています。
・時価総額別構成比率については、当社および当社グループのデータに基づき分類しています。

組入上位10銘柄

(2024年8月末現在)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	イーライリリー	米国	医薬品	9.4%
2	ユナイテッドヘルス・グループ	米国	医療・健康サービス	9.3%
3	ノボ・ノルディスク	デンマーク	医薬品	6.2%
4	アッヴィ	米国	バイオテクノロジー	5.5%
5	アストラゼネカ	英国	医薬品	5.2%
6	サーモフィッシュャーサイエンティフィック	米国	医療機器・器具	4.6%
7	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	4.1%
8	ダナハー	米国	医療機器・器具	3.8%
9	ボストン・サイエンティフィック	米国	医療機器・器具	2.9%
10	サノフィ	フランス	医薬品	2.4%

・組入上位10銘柄については、開示基準日その他の情報と異なります。
・国別については、MSCI分類に基づき分類しておりますが、当社および当社グループの判断に基づき分類したものが一部含まれます。
・業種別については、当社および当社グループの判断に基づき分類しています。
・比率は対純資産で計算しています。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

JPMグローバル医療関連株式ファンド

組入上位10銘柄のご紹介

(2024年8月末現在)

銘柄	国	業種
1 イーライリリー	米国	医薬品
糖尿病治療のための世界初のインスリン製剤の実用化に成功するなど、糖尿病治療薬に強みを有する医薬品大手。動物用医薬品部門をスピンオフし、抗がん剤や中枢神経系疾患(統合失調症、うつ病、注意欠陥/多動性障害)向け治療薬などの開発に注力。アルツハイマー型認知症治療薬や新型コロナ治療薬の開発が注目されている。		
2 ユナイテッドヘルス・グループ	米国	医療・健康サービス
管理医療会社。米国および海外で事業を展開する。雇用主に対し、従業員厚生給付プログラムを計画、管理するための商品やリソースを提供する。米国の高齢者層を対象とした専門介護分野では、プロバイダーや費用の支払業者に向けたヘルスケア情報の提供、調査も手掛ける。		
3 ノボ・ノルディスク	デンマーク	医薬品
デンマークの製薬大手で糖尿病治療薬では世界トップクラス。長期目標として10%の利益成長を掲げる。「トレスィバ」(より長い時間効くインスリン注射)の米国発売に加え、今後数年間で「トレスィバ」とGLP-1受容体作動薬(インスリンの分泌を促すホルモンであるGLP-1を補う薬)「ビクトーザ」(1日1回投与の注射剤)との併用剤や、週1回投与の注射剤であるGLP-1受容体作動薬「セマグルチド」、さらには「セマグルチド」の経口薬、FIASP(超速効型インスリン)などの新薬が上市されると期待される。実質無借金企業であり、増配や自社株買いなど株主還元強化も期待される。		
4 アッヴィ	米国	バイオテクノロジー
2013年にアボット・ラボラトリーズから分社独立する形で設立された米国のバイオ医薬品企業で、新薬の研究開発と販売を手掛ける。現在の主力薬である関節リウマチ薬ヒュミラが2023年に特許切れとなるが、企業買収も含めて新薬パイプラインの拡充を進めている。		
5 アストラゼネカ	英国	医薬品
英国のケンブリッジに本社を置き、英国のゼネカ、スウェーデンのアストラが合併し1999年に誕生したバイオファーマ企業。がん領域、心血管・代謝性疾患、呼吸器疾患にフォーカスした新薬開発を手掛ける。化学療法後の非小細胞肺癌患者を対象としたがん免疫療法薬「デュルバルマブ」に加えて、遺伝性乳がん・卵巣がん治療薬として期待される「オラパリブ」、肺癌治療薬の「タグリソ」が業績を牽引すると見込まれる。		
6 サーマフィッシャーサイエンティフィック	米国	医療機器・器具
米国マサチューセッツ州に本社を置く世界最大級の科学機器・試薬メーカーで、2006年のサーモエレクトロン社とフィッシャー・サイエンティフィック社の合併により誕生。製薬会社、バイオ医薬企業、医療機関向けに、医療用消耗品、計測機器、ソフトウェアなどを提供している。成長のために企業買収を効果的に活用しており、近年では2017年にオランダの医薬品製造支援ビジネス大手のパセオンを72億ドルで買収している。		
7 リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー
リジェネロン・ファーマシューティカルズは、がん、眼病、炎症に対する治療薬を始めとして幅広い医薬品の開発、製造、販売を行う米国のバイオ医薬品メーカーで、既存製品とパイプライン製品による利益成長が見込まれる。		
8 ダナハー	米国	医療機器・器具
医療診断機器やバイオテクノロジー、ライフサイエンスなどの分野で各種機器、消耗品、サービスを提供する米国企業。買収を通じて規模の拡大を図り、ダナハー・ビジネス・システムと呼ばれる事業モデルで買収企業の収益改善を実現していることで知られる。		
9 ポストン・サイエンティフィック	米国	医療機器・器具
患者の負担を軽減する低侵襲治療(インターベンション)テクノロジーを得意とする世界最大級の医療機器メーカーで、米国マサチューセッツ州に本社を置く。狭心症や心筋梗塞などの心血管疾患の診断・治療に関わる製品、不整脈・心不全の診断・治療に用いる製品や、消化器系の癌やポリープなどの診断・治療の製品を取り扱っている。		
10 サノフィ	フランス	医薬品
「近代細菌学の開祖」であるフランスの細菌学者「ルイ・パスツール」に起源を持ち、ワクチン、糖尿病、がん、血栓症、循環器疾患、内科系疾患、希少疾患などに強みを持つフランスのメガファーマ(巨大製薬企業)。他のメガファーマと比べ新興国に強みを持っており、アジアや南米、アフリカでも積極的に事業を展開。重症のアトピー性皮膚炎治療薬であるデュピルマブなどが次のブロックバスター(大型新薬)として期待される。		

出所: ブルームバーグ、各社ホームページ等のデータを基にJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が作成

※企業動向等により前回の銘柄紹介の内容と一部異なる場合がございます。

※上記は個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇およびファンドへの組入れを保証するものではありません。

※国別については、MSCI分類に基づき分類していますが、当社および当社グループの判断に基づき分類したものが一部含まれます。

※業種別については、当社および当社グループの判断に基づき分類しており、ETF(上場投資信託)を除いた組入保有価証券を100%として計算しています。

本資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測、作成時点における当社および当社グループの判断を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

J.P.Morgan
ASSET MANAGEMENT

JPMグローバル医療関連株式ファンド

市場概況

当月の世界株式市場は前月末比で上昇しました。当月は市場が長らく待ち望んでいたFRB(米連邦準備制度理事会)の利下げサイクルの開始と、中国政府が発表した景気刺激策などが好感されました。

このような状況下、世界の医療関連株式市場の動向を表すMSCIワールド・ヘルスケア・インデックス(配当なし、現地通貨ベース)は-3.41%の下落となり、世界株式市場のパフォーマンスを下回りました。

運用状況

当ファンドの基準価額(税引前分配金再投資)は前月末比で下落しました。保有株式の価格が下落したことなどが、基準価額を押し下げました。セクター別では医療機器・器具セクターを除く、全てのセクターがマイナス寄与となりました。

個別銘柄要因

当月は遺伝性神経系疾患の治療薬が主要な研究目標を達成したことが好感された、米国のバイオテクノロジー企業などが、プラスに寄与しました。一方、肥満症治療薬の治験結果が期待外れだったことが嫌気された、デンマークの製薬企業などがマイナスに寄与しました。

市場見通しと今後の運用方針

金融市場のボラティリティ(変動性)にもかかわらず、インフレ率が低下し、中央銀行が政策金利を引き下げ中、米国経済は安定した道を歩んでいます。ストレスの兆候が見られる局面はあるものの、米国の消費者支出は第2四半期に加速し、第3四半期も堅調を維持すると見えています。しかし、米国以外では、グローバルの経済活動はまだ模様です。日本では実質賃金が上昇している一方で、欧州では製造業の弱さが重石となっているほか、中国では国内需要が低迷しています。このような状況にもかかわらず、グローバル株式市場は引き続き上昇しており、多くの株式市場が年初来で既に10%以上上昇しています。今後については、経済状況の改善、魅力的なファンダメンタルズ(基礎的条件)、及び利下げがこの株価上昇を後押しし、グローバル株式市場全体で多くの魅力的な投資機会を提供すると見えています。

医療関連セクターについては、科学や技術が急速な進歩を遂げる中、高齢化する社会や世界的な需要の高まりなどを背景に、引き続き投資妙味が高いとみています。未解決の医療ニーズ分野における技術革新の進捗は著しく、長期的には科学や技術の進歩とともに成功率が高まると考えています。規制環境も本物の技術革新に対しては追い風であり、地域によっては予算等の制約があるものの、顕著な医療成果を生む画期的な治療法には正当な対価を支払う環境が世界的に整っているとみています。

当ファンドにおいては、主に4つのヘルスケアセクターに投資する中で、業種・業態や国・地域、時価総額規模等における分散にも配慮しながら、組み入れる銘柄と組入比率を決定します。また、銘柄選択を最も重要な超過収益の源泉と位置づけていることから、今後も厳選した銘柄への投資を行う方針です。

- このページのMSCIの各指数は現地通貨ベースのPrice Index(価格指数)を使用しています。
- 上記運用状況および運用方針については、実質的な運用を行うJPモルガン・ファンズ・グローバル・ヘルスケア・ファンド(外国投資証券)に係る説明を含みます。
- 上記は、作成時点のJ.P.モルガン・アセット・マネジメントの見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。